

心不全とはどんな病気ですか？

心臓は24時間休むことなく働き続け、体中に血液を送っている臓器ですが、その心臓のさまざまな疾患（心筋梗塞や狭心症、心筋炎、弁膜症など）により心臓の機能が低下して、十分な血液を送り出せなくなった状態のことを「心不全」と呼びます。

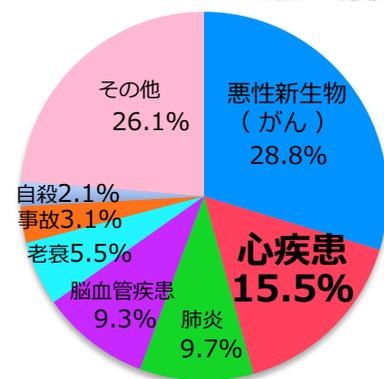
生活習慣病や年齢と共に増加する心臓への負担(心臓ストレス)などにより、「心疾患」は増加傾向にあり、疾患別の死亡率は、「がん」に次いで第2位となっています。

また、自覚症状のない「無症候性心不全」が増加傾向にありその数はおよそ100万人ともいわれており、突然死も多く、特に40～50歳代の働き盛りの方は注意が必要です。



心不全になるとどうなる？

- 体に十分な血液を送ることができなくなるため、体に必要な酸素が足りなくなり、息切れがしたり疲れやすくなったりします。
- 肝臓や腎臓といった内臓にも血液の供給が不十分となるため、内臓の機能が低下します。



主な死因別死亡数の割合

平成25年人口動態統計(厚生労働省)
<http://www.mhlw.go.jp/houkei/saiken/hw/jinkou/geppo/nengai13/d/kekka.pdf>
 を加工して作成

NT-proBNP とは？

NT-proBNPとは心臓から分泌されるホルモンの一種で、心臓の機能が低下して心臓への負担が大きくなるほど血液中に多く分泌され、数値が高くなります。

心臓疾患を検出する方法としては、心電図検査が広く行われていますが、心電図検査だけでは検出できない場合も多々あり、心電図に現れていない「心不全の危険度」を知る目安となります。

心電図検査とNT-proBNPの両方を行うことにより、より心不全を検出する感度が上がることも報告されていますので、心疾患が心配な場合は一度NT-proBNP値のチェックをお勧めします。

高血圧や高脂血症、糖尿病などの生活習慣病をお持ちの方をはじめ、喫煙される方、肥満傾向の方、動悸や息切れ、胸の痛み夜中に息苦しくなるなどの症状のある方には、特にお勧めします。

NT-proBNPは、心臓への負担の程度を大まかに知ることができる検査ですので、心不全の原因となる病気の診断には、別の血液検査や心臓超音波検査、心臓カテーテル検査、運動負荷検査や核医学検査などが必要になることがあります。

心不全診断におけるBNPとNT-proBNPのカットオフ値

日本心不全学会ホームページより引用

